



第2839回 例 会 (R 3 . 3 . 1 6 火 曇り ☁)

【 S . A . A . 担当例会 於：大 縣 神 社 】

点 鐘 岡田 雅隆会長
R . S それでこそロータリー 四つのテスト(※ご静聴)
ビジター ☆大縣神社 祢宜 日比野 健(たけし)様
幹事報告 福富 孝弘幹事
1) 会報受信クラブ 瀬戸 瀬戸北

※近隣クラブはコロナ禍により、ほぼメーキャップ受付を
されておりません

☆地区大会ご参加御礼

出席報告 (保浦博志委員長)

出席率 100% 会員 52 名 (*出席率は紙面での報告のみ)

ニコボックス (大島匡博委員長)

岡田雅隆君 皆様お元気ですか。このような時節ですが、大縣神社様のご好意により梅見例会を迎えることができました。また日比野 祢宜様の卓話を拝聴できますこと、感謝申し上げます。お帰りには皆様ぜひとも素晴らしい梅林の風情をお楽しみ下さい。

(同文にて) 松平實胤君 福富孝弘君 丹羽敬昇君

※代表役員宮司 牧野武彦さんからニコをいただきました

板津英基君 先週 13 日土曜日に、豊田市の豊田能楽堂で公演された金剛流による能「船弁慶(ふなべんけい)」にある縁により、4 年生になる孫娘が子方(こかた)「義経」で出演させていただきました。多くの観客の前でのプロの能楽師に混じっての演技でしたので大失敗しないかと、大変心配いたしましたが、無事、役を務めてくれました。終わった途端見ているこちらの方が安堵の気持ちでどっと疲れが出た感じでした。子方をプロの能楽師の子供以外が演ずるのは稀と聞き、孫共々、得難い、貴重な体験ができたことに感謝して！
又、本日日比野 祢宜様の初のお話を拝聴できることを喜んで！

祖父江寿男君 皆出席 18 年を喜んで！
藤井友喜君 梅見例会を開催できる事、祢宜 日比野様の卓話を拝聴できます事を喜んで！大縣神社の皆様には大変お世話になります。宜しくお願いします。

(同文にて) 埴田惣一君 原正男君 日比野良太郎君
保浦博志君 井川光雄君 稲垣圭次君
板津英基君 伊藤隆君 岩間信夫君
加藤浩一君 近藤斉宏君 近藤俊也君
間森清二君 松山基邦君 野村憲治君
小川宏嗣君 奥村正幸君 大島匡博君
朱宮新治君 鈴木一成君 高橋秀治君
山田直廣君 山根雄司君 安田新平君
吉田洋君

会 長 挨拶 (岡田 雅隆会長)



さて、本日も例会を開催させて頂きます。
本日の例会は、大縣神社の持ち出し例会であります。
本日は牧野宮司さんが職業奉仕でご不在であります
がご無理を申し上げ、日比野 祢宜さんにご卓話をお願いしました。

ということで、本日のゲストを紹介させて頂きます。
大縣神社 祢宜 日比野健様です。後ほどの卓話宜しくお願い申し上げます。

さて、先日の日曜日に地区大会がセントレアの愛知県国際展示場で開催され、犬山 RC からは出席義務者 22 名にて参加してまいりました。

コロナで大会も様変わりして、ホストをされた知立 RC さんも大変であったろうと思います。

この頃に梅の実に栄養を採られないように枝の剪定を行います。芽が出ている枝を一枝につき3つ芽を残して切りそろえ樹形を整えていきます。この時残した芽が夫々1mほど伸び、この枝に花芽が付く来年花を咲かせます。

葉が茂りだすと天敵のアブラムシ、毛虫等が葉を食い散らします。葉を食べられてしまうと枝は伸びなくなるため、殺虫剤を散布し害虫を駆除します。また夏の土用に入ると土用芽と云う徒長枝が伸びて来ますが、この枝には花芽が着く事が無い為、切り取り樹形を整えます。また夏場は、気温の上昇と共に保水力が奪われ、水を給水出来なくなった木は、葉の色を黄色に変え、やがて葉を散らしていきます。葉を黄色にすると云う事は、葉の細胞に水が行かず焼けてしまい光合成が出来なくなる、つまり木が呼吸困難に陥っているとのSOSのサインを出しているのです。これを見逃してしまうとやがて葉を全部落とし枝は枯れてしまいます。

その他に梅はしゃべりはしませんが、いろいろなサインを出しています。例えば、樹皮の色を変えて健康状態を伝えてきますし、一番怖いのがウメ輪紋病というアブラムシを媒体として広がるウイルス性の病気で、葉や実に円形状の模様が出来ます。感染すると条例により植物の半径30m以内の木は抜根し、焼却等の適切な処理を行わなければならない。このようなことにならない様、日々梅の健康状態の確認の為、梅園に足を運んでいるが、木が大きくなるには地中から養分を摂取し根が張らなければならない。よく言われるのは、枝の張りと同じ位、地中で根が張っていると、やはり土壌が良くないと食物は育ちません。

母なる大地が重要であり、また物事は表裏一帯であり、人は華やかな方ばかり目が行っているが、見えない部分を見る事、また耳で聴きとることの出来ない声も感じ取る事も需要であると管理を行ってつくづく感じさせられました。

今、世界中が新型コロナウイルス感染爆発というパンデミックに直面しております。

これからどうなっていくのかだれもわかりません。ウイルスという肉眼で見ることが出来ない敵と戦っていますが、目に見えない物というのは本当に怖いと痛切に感じさせられました。

何よりも、人は自分の目に見えるものが全てであって、それ以外を認めず邪険に扱って来た様に思います。人は自然の中で生かされているのに、自然の中に一方的に侵入し人間に隷属させていった。ウイルスが一つの種の中で安定して生き続けられるようになるには、膨大な数の宿主の犠牲と膨大な時間を経ていると云われております。ようやく全体として平衡を保っているところに、人間がずかずかと入り込んで手を差し伸べてしまったことが今回の感染爆発につながったといわれております。

古来より日本には、結界という概念があります。決して侵してはいけない領域であり、他者を尊重し夫々住み分けをし、他者を守るにより自分を守り均衡を保って参りました。神道の世界にも神域という言葉があります。神の宿る場所、一番尊い神聖な領域を云

います。その他に禁足地と云われる決して足を踏み入れてはいけない場所があり、神や自然に畏敬の念を持ち、自然より恵みを頂き生かされ、その恩恵を受けて暮らして参りました。木を切るにあたって、木の神様に理のお祭りをし伐採を行い、末と本を残し真中だけを戴き、切り株に本となる枝を植栽し山の緑を保ちます。このように日本人は木を一本戴いたら木を一本植え、自然のバランスを崩す事無く共存してきました。然し乍ら、現代においては、自然を抑圧し、昔からの言い伝えとか、古老の話、崇りとかを非科学的とし、目に見える者が全てあって、人がこの世を支配しているかの如く事を進めてきたことへの自然からの警鐘ではないかと思ひます。

今年は折しも東日本大震災より10年を迎えました。私共愛知県で暮らす者にとってはもう10年もたったのかと思うかもしれませんが、被災された方、被災地に暮らす方々にとっては昨日の事のように話をされておられます。映像を見るたび心が痛みます。被災地の人人の悲しみや苦しみを見ること知る事によって、自分たちは幸せだなと感じます。

10年前宮城県の漁村で、津波に家族や友達を奪われた少年が云っておりました。僕には欲しい物等は何も無い。只、お父さんお母さんがいて、毎日けんかばかりしていたが弟が居てくれたらなにもいらぬ。勉強は嫌だったが、毎日学校に行って友達と遊ぶことが出来たらどんなに幸せなんだろう。そんな日々が懐かしいと。こんな話を聞くと何事もない平々凡々な日常が本当は一番幸せなのかもしれません。人は、無くしてからその有難みを感じます。それでは遅いのです。幸せはすぐそばに在るのです。それを感じるにより、心を豊にし、日々の生活にも張りが出来、何があっても感謝の気持ちを持てるそんな気がします。

お帰りの際に見て頂きたいのですが、元号の出典元となった、皆様ご承知の万葉集巻の五梅花の歌序文の扁額が階段下に掛けてあります。福玉の今枝達夫様が揮毫されたものであります。

「初春の令月にして 氣淑（よ）く風和（やわら）ぎ 梅は鏡前の粉（こ）を披（ひら）き 蘭（らん）は珮後（はいご）の香（こう）を薫（かおら）す」と書かれております。

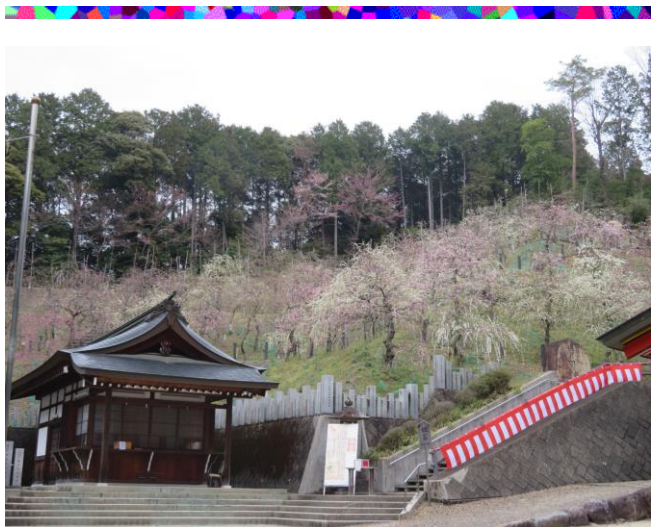
厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人一人の日本人が明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたいとの願いを込め、「令和」にされたと存じます。そんな世が来ることを願って已みません。

最後となりましたが、犬山ロータリークラブの益々の隆昌と岡田会長様をはじめ会員の皆様方のご多幸とご健勝をお祈り申し上げ、私の話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

<<3月9日会報訂正>>

※3 ページ目左側下段 下から6行目

丹羽広域事務組合消防本部 消防次長兼消防課長
(誤) 高木 徳哉様 → (正) 遠藤 英安様



* * * 梅 * * *



ご 報 告 ○地区大会

3月14日(日)地区大会が愛知国際展示場において開催され、岡田会長他出席義務者の皆さんが出席されました。

